

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（755））

2. 日時：平成30年3月12日 13時30分～16時55分

3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

名倉安全管理調査官、江崎企画調査官、吉村上席安全審査官、岸野主任安全審査官、津金主任安全審査官、安田主任安全審査官、照井安全審査官、日南川安全審査官、千明技術研究調査官、郡安技術参与、竹内技術参与、堀野技術参与、山浦技術参与
（原子力規制部 審査グループ 地震・津波審査部門）

植木安全審査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他12名

東北電力株式会社：原子力部（原子力設備） 担当 他3名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部耐震技術グループ 副長 他1名

中部電力株式会社：原子力土木部 設備設計グループ 副長 他2名

北陸電力株式会社：土木部 耐震土木技術チーム 副課長 他1名

中国電力株式会社：電源事業本部（耐震設計土木） 副長 他2名

電源開発株式会社：原子力技術部 原子力土木室 担当 他1名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、3月7日及び8日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請のうち、耐震設計の基本方針、耐震設計上重要な設備を設置する施設の耐震性についての計算書について、説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

＜設計用床応答曲線の作成方針＞

- 1次固有周期が0.05秒以上、2次固有周期が0.05秒未満の場合を例として、全体の応答がどのようになるか整理して提示すること。
- 応答スペクトルにおいて、周期0.05秒以上でその周期の近くにピークがある場合の応答スペクトルとZPAの取扱いについて整理して提示すること。
- 周期0.05秒よりも短周期側の振動モードと刺激係数について、スペクトルモデル解析でどのように評価するか整理して提示すること。
- 0.05秒未満の周期帯では応答増幅がないとする根拠（実験、観測等）を整理して提示すること。
- 原子炉建屋地震応答解析モデルの固有値解析結果（鉛直方向）によって、原子炉格納容器の剛柔判定を行うか確認し、その結果を整理して提示すること。

＜屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について＞

- 屋外二重管の断面選定について、地盤のせん断ひずみや鋼管杭の応力に着目し、評価対象断面を整理して提示すること。
- 屋外二重管の横断方向に関する地層変化の情報を示すとともに、地層変化による地盤の地震応答を踏まえて、評価対象断面の選定の考え方を整理して提示すること。
- 屋外二重管に設置する落下防止材及び流動化処理土の位置付け及び目的を整理して提示すること。
- 「屋外重要土木構造物の耐震評価における断面選定の考え方」においては、各施設の構造概要、荷重伝達のメカニズムが分かるような補足説明を整理して提示すること。
- 隣接する設備・施設との接合部について、構造概要を示した上で、設計の考え方を整理して提示すること。
- 立坑形式の構造物について、構造物の耐震性及び搭載する機器・配管系への地震時影響（設計用床応答値）の観点から、断面選定の考え方を整理して提示すること。
- 常設低圧代替注水系配管カルバートの断面選定について、側方地盤の地層変化に伴う地盤の地震時変位による構造物への影響を整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：なし